白河の翼

第　８３　号
令和７年３月３１日
発行人：支部長　栗林正樹
※題字：白川仁一先生
※印刷：さとう総合印刷

「スナッグゴルフとの関わり」

西白河副支部長　鈴木　且雪

公職を退いてから、人と関わる機会がなくなるのも寂しく思うこともあって、西郷村の「にしのさとスポーツクラブ」で子どもたちの活動として行われている、スナッグゴルフのお手伝いをさせてもらっています。

スナッグゴルフというスポーツは、まだあまり馴染みがないので、ご存じの方は少ないと思います。スナッグゴルフは、アメリカで長年研究された結果生まれたものでキーワードは「子どもから大人まで」「楽しく」「ゴルフの基本が身につく」で、簡単なルールと、ボールが的にくっつく（英語の SNAG の意味）ことと、Starting New At Golf(ゴルフを始めるために）という言葉の頭の四文字をとった SNAG から名前がつけられたものです。スナッグゴルフで使うボールは、硬式テニスのボールのような堅さのもので、大きさはゴルフのボールより二回りほど大きいものですが、その重さはゴルフボールと同じです。ボールの最大飛距離は、大人が打っても５０ヤード（約４５ｍ）程度なので、限られた広さの場所でも十分楽しめます。

使用するクラブはランチャーというゴルフで使うアイアンのようなものと、パターにあたるローラーの二種類だけです。グリーン以外のところでショットをするときには、ランチマットというゴム製のマットを使ってティーアップした状態で打つので、芝生や地面を傷つけることなくプレイできます。ゴルフではグリーンのホールにカップインさせますが、スナッグゴルフでは表面を面ファスナー素材で覆われたスナッグフラッグにくっつけることでホール終了になります。

日本では大会に参加することができるのは小学校２年生から６年生までで、３人の合計点で競うので、最低３人いればチームができます。大会ではコースは９ホールで、短い PAR ３は１５ｍ～３０ｍ、中間の PAR ４は６０ｍ～８０ｍ、そして長い PAR ５でも１００ｍ～１２０ｍを基本に設定されます。ゴルフでは全ホールを PAR で回るとスコアは３６ですが、スナッグゴルフも同じです。

西郷村の子どもたちがスナッグゴルフに取り組んでから１０年近くが経過しているので低学年から参加している子どもたちはなかなかの腕前ですが、毎年西郷村のグランディー那須白河ゴルフクラブの那須コースで行われる東日本大会には、北は北海道から南は静岡県までで行われた県大会を勝ち抜いた２３チームが参加するので、上手な子どもたちが大勢いて、PAR3 のホールでホールインワンや PAR5 のホールで２打で上がるアルバトロスなどがたくさん出ます。今年の大会でのベストスコアは２３ストローク１３アンダーでした。強豪チームがそろっているのは歴史が古い茨城県で、中でも笠間市の小学校は優勝の常連チームが数多くあります。そんな中で、西郷村のチームは今年は１１位に米小学校、１２位に小田倉小学校１７位に川谷小学校チームが入る活躍を見せてくれました。関わったものとしては嬉しい限りです。

参加している子どもたちの性格や技量は一人一人違っているので、その子にあった関わりを大切にしながら、楽しく取り組むことを第一に、今年も４月から毎週土日の練習に顔を出し、関わりを続けていきたいと思っています。LPGA で活躍する、第二第三の畑岡奈紗プロがここから育つことを夢見て。

《おめでとうございます》

この度、大塚克正先生が、福島県公立学校退職校長会より「賀寿」（満９５歳）を受けられました。また、小森勇先生が全国連合退職校長会より「賀詞」（満８８歳）を受けられました。
皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げ、心からお祝い申し上げます。

「小森勇先生米寿おめでとうございます」

野口意千朗

小森勇先生、この度、米寿を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

小森勇先生には、善郷小学校で、先生が定年退職されるまでの２年間、私は、教頭として沢山の教えをいただくことができました。

小森勇先生は着任式の時、ご専門の英語で挨拶を始められ「校長先生はすごい！」と、一瞬にして全校生を魅了してしまわれました。ふだんの２校時が終了した小休息の時間には、どんなに仕事が忙しい時であっても、毎日必ず職員室に顔を出され、他の先生方とお茶を飲みながら談笑して、いつも「和」を大切にされているお姿が印象的でした。

また、「教頭さん、あそこの通路には、大きい足ふきマットを置けないかね・・・」など、常に、子どもたちの安全・安心、そして先生方が少しでも仕事のしやすい環境づくりに気を配った学校経営を推進されていたことは、その後の私の教師生活の大きな指針となりました。

職員室組の先生方と、毎日、職員室後方の大きなテーブルを囲んで食べる給食の時にも、小森勇先生は、給食献立のこと、季節の植物や野鳥のお話、そして地元のおいしいお菓子のことや旅行のことなど、造詣が深いお話をいつもされて、給食の時間の職員室は、常に和やかな笑い声で包まれていました。

小森勇先生がご退職された年は、私も異動の対象となってしまい、ご退任にあたっての十分なお見送り対応ができず、本当に申し訳ない状況でしたが、後日、当時のＰＴＡ本部役員の方々と、鮫川村の宿泊施設に一泊して親睦を深めたことなどは、今でもよき思い出として心に残っております。

小森勇先生、どうかこれからも楽しい人生を過ごしていただき、私たち後輩を見守り続けていただきたいと願っております。

『随想』

幼少期の想いが今

鈴木　憲一

時代は昭和。私は表郷第五小学校１年生、６学年に在学中の叔父を含め１２人の大家族。教員の父の給料だけでは日々の暮らしはままならず、山や畑で採れた山菜や野菜が食卓に。果物を口にするチャンスといえば感冒時のみかんが精々。とは言え、庭や畑には、栗、柿、梅、ハタンキョウ、無花果、スグリ、サガリンコ、ブドウがあり、それらを勝手に口にし、味わうのが最高の喜び。今思えば子供好きの祖父母が、子や孫のために植え付け、育てていたのだろう。

半世紀が過ぎ、東中勤務の私も退職後のことは少しは考えるようになった。５年間お世話になった東中では、１年生を対象にリンゴの摘果と収穫の体験学習を実施。子どもを見守るため、自らも農家へ何度も足を運んだ。農家の方は猛暑の中での消毒や寒い冬に行う剪定作業など１年間休みなしで苦労ばかり。それでも、学びに来た子どもたちに笑顔で接し、時にはリンゴをご馳走することも。

「桃栗３年……」の言葉が脳裏に。そして「今、苗を植えておけば退職後に……」そんな思いから様々な果実苗を買い求め、家の空地（荒地）に植え始めた。

珍しい物好きの私はインターネットでポポーやアップルキウイも購入し、胸を膨らませていた。

ハプニングは付きもの。ネットで「雌のキウイ苗」を購入したはずが、２年後開花しても実らず、翌年も同様。花を注視し観察したところ、間違いなく、いや間違いの雄株。３年前に発注した店にメールで連絡。店にも販売履歴が残っていたためか、後日生きのいい雌株が届き、やっと３年後に大きなキウイが実った。ネット買い故のメリットかな（？）とも思った。

ラフランス、梨、桃をはじめ畑（荒地）には、１０種類の果樹が育っている。ブドウやキウイはそれぞれに４種あり、味に違いがあるように育て方にも違いがある。昔、ブドウには種があるのが当たり前だったが、最近の子どもは「このブドウ、種がある！」と言い放つ。種なしブドウを作るにはジベレリン処理をし、無種子化させなければならない。デラウェアのジベ処理は、満開予定日約１４日前（第１回）及び満開時１０日後（第２回）。第１回目は 100ppm、第２回は 75ppm に濃度を合わせ花房に浸漬させる。房によって開花時期が違うため、結局ジベ処理は毎日。そんな作業より私が最も嫌いな作業は、摘果作業である。優秀なものを作るために、他を切り捨てる作業である。もぎ取られるものは病気や傷がある出来の悪いものが最優先。

例えば１房のシャインマスカットを仕上げるには、①摘芯：新しく出た枝を適宜切り落とす。②摘房：１つの枝に複数なっている花房を１つだけにする。③摘果：１つの房の粒（果実）を４分の１程度残す。④摘粒：大きく育った実粒を約５０個までにする。ざっと一つのブドウを作るには１万個以上が犠牲になっているだろう。作業の大変さよりも、何故か心が痛む作業で一向に進まない。

昨年・一昨年は猛暑で予想以外のことが生じた。ブドウの実が大きく育ち甘みを増し、最高のブドウができたのだ。反面、紅伊豆（ブドウ）が実割れを起こし、色づきも悪く、病気も発生した。果樹の敵は天候や病気の他に、虫（カメムシ、カミキリムシ等）、鳥、獣（ハクビシン）なども。収穫しようとする前日に食べられるのだから、腹立たしい限りである。

さて、収穫した果物の行方といえば、親戚、近所、友達、昔の同僚等に食べてもらっている。

昨年はブドウを４３軒に配った。お世辞に「立派だね。美味しかったよ」と言われれば心地よい。ついまたあげてしまう。昨年２人の孫を連れ家族５人でブドウとキウイの収穫作業を手伝ってくれた友達がおり、沢山持ち帰ってもらった。また、今年は白河市表郷子ども食堂へキウイを１２０個提供した。

曲がりなりにも人にあげられる果物ができるようになったのは、幼少期の家庭環境と東中での体験学習のお陰であろう。近年は暑い夏が長く続き、汗だくの作業もあるが、不思議と栽培作業は１ミリも苦にならない。夏を前にピンクに輝く桃の花。真っ白な梨やラフランスの花。可憐に咲くブルーベリーの花。それらを眺めるのも至福の喜び。

「生り物は花で楽しみ、実を味わう」
ばあちゃんの言葉を思い出す。

祝 令和６年度瑞宝双光章 叙勲祝賀会

石川　政彦

令和６年度の叙勲祝賀会が、令和６年１２月８日（日）、東京第一ホテル新白河で開催されました。今年度の受章者は、菊地順雄先生、佐藤勝三郎先生、金内啓四郎先生の３名で、菊地順雄様、金内啓四郎様のお二人がご出席されました。

ご来賓として、福島県教育庁県南教育事務所長　橋本美弥子様、福島県市町村教育委員会連絡協議会西白河支会理事長　芳賀祐司様、西白河小中学校長連合協議会長　西牧泰彦様のご臨席を賜り、総勢４２名の参加者を得て、盛大に祝宴が催されました。

主催者挨拶を、栗林正樹退職校長会西白河支部長が申し述べ、受賞者の皆様の略歴の紹介を、鈴木且雪退職校長会西白河支部副支部長が行いました。

花束贈呈は、参加者代表として髙田健一先生、室井博人先生の両名が行いました。ご来賓３名の皆様よりご祝辞を頂戴した後、受賞者の菊地順雄先生、金内啓四郎先生より受賞のご挨拶を頂きました。受賞の喜びやこれまでの人生の中で努力を傾注されてきたことなどについてお話しいただきました。

乾杯のご発声は、参加者を代表して吉田隆先生が行い、福島俊男　退職校長会西白河支部顧問が、万歳三唱で会を締めくくりました。

教育界における永年の功績が認められ、晴れて叙勲の栄に浴された３名の受賞者の皆様、

誠におめでとうございました。

《ご冥福をお祈り申し上げます》

下重　秀俊先生	令和６年	７月２６日	ご逝去
髙根　勇次先生	令和７年	１月１６日	ご逝去
石川　隆夫先生	令和７年	１月１７日	ご逝去
鈴木　俊雄先生	令和７年	２月　５日	ご逝去

（訂正）82 号の文中の「下郷村立南小学校」は「下郷町立南小学校」の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

《編集後記》

退職校長会西白河支部創立６０年の節目にあたり記念誌編集等を通し歴史を振り返ることができました。還暦を経て新たな気持ちで次年度が迎えられますように！　　広報係